

過疎地・水資源等対策特別委員会記録

開催日時 平成23年2月21日(月) 13:04~15:03

開催場所 第1委員会室

出席委員 8名

国中 憲治 委員長
田中 惟允 副委員長
小林 茂樹 委員
高柳 忠夫 委員
今井 光子 委員
新谷 紘一 委員
秋本登志嗣 委員
川口 正志 委員

欠席委員 なし

出席理事者 影山 地域振興部長
廣野 文化観光局長
武末 医療政策部長
富岡 農林部長
川崎 土木部長
浅井 水道局長 ほか、関係職員

傍聴者 なし

議 事

(1) 2月定例県議会提出予定議案について

(2) その他

<質疑応答>

○国中委員長 ただいまの説明、そのほかの事項も含めまして、質疑があればご発言をお願いしたいと思います。

○秋本委員 武末医療政策部長にお聞きしますが、南和医療の体制のあり方を説明いただいたのですが、これは何も通告していませんので、別に答弁は結構ですけれども、この件については、県議会議員として武末医療政策部長らと話し合いをする場所はまだあるのですか、余地はあるのですか。もうこれが最終ですか。検討の余地、まだありますか。

○武末医療政策部長 今日報告したのは、これは検討、市町村の合意を。

○秋本委員 そうですか。我々もまだ話をさせていただける機会はあるということですね。

○武末医療政策部長 まず議会で。

○秋本委員 はい、わかりました。それでしたら結構です。

富岡農林部長、先ほど農林部の関係で、アユの関係でお話をさせていただいたのですけれども、先に、この前の高病原性鳥インフルエンザ、早期に対応していただきまして本当にありがとうございました。五條市をはじめ鳥業を営んでいる方々から大変ありがたかったということで連絡をいただいています。本当にありがとうございました。

アユの関係も要望にしておきますけれど、検討してほしいのです。平坦なところの河川と道路との落差は少ないのですけれど、山間に行きましたら、水はきれいだ。物すごくきれいで美しいし、気持ちも良い。釣りをしても一日がやっぱり楽しいというようなご意見はいっぱい出るのですけれども、その上の道路から下の河川までおける道路が何も無いものですから、あそこのところに行って釣りをしたいので、今からまた釣りシーズンが始まるわけですが、釣りをしたいという気持ちはあるのですけれども、なかなかその場所に行くには大変遠回りをして行けない状況になっていますので、例えば場所を言いましたら、大塔町の舟ノ川、この河川敷におけるとはありますが、おける道路がないわけです。できたら釣り人が楽しく釣りができるような状態に、おける道というものの確保を、できるようでしたらつくる方向でご検討をしていただけたら、釣り人がもっともっと楽しく喜んで釣りができるのではないかなと思います。その点要望だけしておきます。よろしくお願いします。

○国中委員長 よろしいですか。

○秋本委員 それで結構です。

○川口委員 この間、御所市の済生会御所病院の院長に会って意見を聞いた。南和3病院のご協議をなさっているいろいろ新しい展開を進めて、これは結構だと。けれども、平たく話をしたら、赤字の病院が集まって一体どうなるのかということや。だから、吉野郡、五條市の圏域に民間病院があるが、これとのかかわり合いがどうなりますか。それから、御所市の済生会御所病院もこの圏域ですと鴻池病院も入る、近隣周辺の病院との関係。やはり助け合わないといけない、支援をし合わないといけない。もう既に医師の交流などもあるけれども、そういうものをもう少し真剣に考えるべき、組み立てるべきではないでしょうかという意見を聞いてきたわけです。川口さん、この病院に関心がないのですかと、この

間怒られてきたのです。

そういうことで、今、秋本委員がおっしゃったわけですがけれども、武末医療政策部長は、これは案ではなく合意だとおっしゃった。だから、基本的にはもう変わらないものかと思うけれども、県会議員の話というのはここへ反映をされるのかどうかを秋本委員が尋ねられたのだと思うし、私もそう受けとめたわけです。けれども、もう合意ということになっている。最後のプログラムももうつくられている。そういうことになってくると、一体あなたがおっしゃった県会議員の発言に対して耳を傾けましょうというのはどういう意味なのかということと一緒に聞いときたいがゆえに、ちょっと待ってくださいと、こう言ったわけ。大体同じような気持ちだと思うけれど。

○武末医療政策部長 再度繰り返し申し上げますと、きょうご報告したものについては、県が独自に決めているものではございません。協議会の場に県と五條市3町8村が集まって話し合いをしているものですから、県がああしろこうしろと言うことはできませんので、その範囲の中で、どういった議員からご意見が出るかということは、県としては受けとめまして、対応できるものは対応していきたいと思っておりますが、正直に言って中身によりますので、そこは具体的にお伺いをしながらと思っております。ただ、最終的にもうこれですべてが決まっているわけでは決してございませんので、この議会もごございますから、その場やいろいろな場を通じてご意見を受け承っていききたいと思っております。

それともう1点、川口委員から私立病院等はどうなっているのかということでございますが、これはどちらかという公立病院をどうしていこうかということ、その病院を持っている自治体が集まりまして話し合っている場でございます。実際の地域の医療は、私立の病院も含め、診療所もございますので、その中で一体として議論していく必要があると思っておりますが、まだその手前の、多分比較的大きな施設である公立病院がどういう方向でいくのかをまず3病院で話し合っていきたいと思いますという位置づけとなっております。その3病院の方向性がきちんと定まれば、あるいは定める中で、民間の病院や診療所の先生方との連携はやっていくという思いは、この資料の中にも少し、県立病院、地元の診療所等々の連携という中に置いております。

ただ、恐らくいろいろ役割が違うのだと思いますので、今までそこを十分話し合っ、お互い、役割の反対には責任がございます。地域の医療に対して、それぞれが役割分担をして、その役割を引き受けた分野については責任を持ってやっていこうという中で、今まで対応できていなかった分野に対しても対応できるのではないかとということで、赤字もな

くなるとは申し上げませんが、今までよりはかなり効率的な運営ができるのではないかと考えております。以上でございます。

○川口委員 公立病院の健全化、健全運営をねらいにして出発をされていることはわかるわけです。だけれどその地域医療というのは公も民も合体でやってもらわないといけないわけです。より充実、より強化された医療体制を望むが余り、こういう発言をしているわけです。並行して進めるべきは進めないといけない、公はこう決めましたから民は適当にかかわり合いなさい、おつき合いしなさいと、こういうことではちぐはぐになるのではないかと思わけます。だから、ある程度整合性を持って展開をなさることが大事ではないかと、あえて申し上げておきます。

きょうはこれ以上議論しても、医療にかかわっては素人ですから、そういうことで言うておきます。

○国中委員長 よろしいですか。

○秋本委員 もう一度、公立は公立として、次はまた民は民ということで考えがあるのであったらいいのですけれども、五條市、吉野郡、御所市というのは大体一帯の地域としていうことで、そういった中での医療も考えてやってもらいたい気持ちもありますし、また五條市では、南和では山が7割ですから、吉野郡も五條市も山が7割ですから、救急でも救急車だけでは救急ができない状況もあるわけですから、そういうものも踏まえた中で、これから時間をいただいた中で、武末医療政策部長と、また川口委員とも一緒になってご相談をさせていただこうと思っておりますので、時間のことよろしくお願ひします。

○今井委員 南和の医療のことで質問したいと思ひます。

南和の医療で一番要望が切実なのが、やはりお産のできる場所がないという問題です。今、県の原案の説明を聞いておりましたら、診療は新しい拠点病院でできると、だけれど出産は医大のメディカルバースセンターでという考えが示されていると思うのですけれども、平成26年に新たな病院ができるという、4年先の計画で、メディカルバースセンターはことしからオープンということになっておりますので、新しい拠点病院ができれば地元で出産ができるという、地元の人たちがそういう見通しが持てる拠点病院にしないといけないのではないかと考えております。だから、最初ここで言われていることはよくわかるのです、体制がないから、そのときに応じてやるという、そうしたかかわりが書いてありますけれども、ここで出産ができる体制をすることを位置づけるべきではないかと考えております。

この間、1,300人のお母さんが安心な出産のための奈良県のアンケートの報告会があり、聞きに行きまして資料を見せてもらいましたところ、平成20年の南和の医療圏、これは五條市と吉野郡ですけれども、ここで分娩の数が17です。出生した赤ちゃんが440人。423人の子供が地元で生まれていないことがわかりました。

自由記載では、いろいろ書いてありますけれども、30人の南和のお母さん、出産したお母さんのうちの9人が出産の場所が遠いと答えています。高速に乗って車で移動、12月の予定日で、雪で交通機関が閉鎖してしまわないか心配、出産できる病院まで車で1時間半かかる、妊婦健診のたびに主人に仕事を休んでもらって車を運転してもらった、車に乗っているだけでも疲れた、車の運転ができないので、主人がいないときはどのようにして病院に行けばいいのか心配だった、病院まで40分かかる、もし出産が早まって間に合わなかったらと不安だ、車で毎回1時間かけて行くので、つわりのときとか運転が大変だった、2人目のときは陣痛が早まったら大丈夫かと心配をしたということで、本当にこの出産、これから新しく南和振興局をつくられるということですからけれども、子供を産む場所もないような地域をまず解消しないと、若い人たちには住めないと思います。そういう意味では、4年先の目標ということになるかもしれませんが、そこで産める場所をつくるのをこの計画に入れるべきではないかと思っておりますので、それについてのご意見をお伺いをしたいと思います。

あと2点ですが、TPPの問題です。TPPの問題では、代表質問でもさせてもらったのですが、知事は国の農業政策を見て、様子を見るのだという見解を示されていたと思うのですが、今、本当に林業が大変になってきていると。このルーツをたどっていきますと、木材の輸入の自由化が始まって以来、以前は8割が国産材、2割が輸入材でいっておりましたのが、今は逆転しております、日本は8割が輸入材、2割が国産材という状況になっております。しかも世界の中で一番木材で輸入量が多いのが日本の国になっておまして、奈良県でも77%を森林が占めておりますけれども、もうそこではとても林業でやっていけない状況が生まれてきている状態です。木材の部分では、丸太はもう既に関税がゼロ、チップとかもゼロになっておりますけれども、集成材はまだ税率がかかっておまして、こうしたものがまたTPPでゼロになれば、物すごい大きな打撃を受けるのではないかと思います。

さらに、農業の部分では、今、お米で1キログラム402円、小麦で65円の関税がかかっておりますけれども、これが廃止になりますと、奈良県の場合は耕地面積の75%が

田んぼ、全国は54%が田んぼですので、非常に与える影響も大きいのではないかと思います。本当にこの過疎を食い止めようと思っておられるのであれば、奈良県がTPP反対ということをきちっと表明するべきだと思えるわけですが、その点でどのように考えているのかお伺いをしたいと思います。

3点は、吉野町の近鉄の大和上市駅のところにかかっております橋が非常に老朽化をしてきておまして、乗降客も非常に少なくなっているということで、近鉄の電車が大和上市駅から吉野駅に向けてもう行かなくなるのではないかと地元の心配の声も出ているわけですが、その点で県は、近鉄からいろいろお話を聞いているかと思えますけれども、どんな状況かお尋ねしたいと思います。

○中川地域医療連携課長 まず、今井委員の南和の医療の関係で、分娩についてお答えさせていただきます。

まず、県全体での出生数でございますが、年間おおむね1万人余りで、南和地域の出生数は400人強という状況でございます。現在、南和地域の公立3病院におきまして、妊婦健診や分娩については今のところ全く、健診についても対応しておりません。それで、南和地域におきまして、分娩や妊婦健診が可能な医療機関は、五條市内にございます1カ所の診療所だけという現状でございます。地域でお産される方々は、委員がおっしゃったように、他地域で健診や分娩をされているのが現状でございます。

こういう現状を顧みまして、南和医療等に関する協議会におきまして、まず救急病院につきましても、分娩に対応することについて十分検討したのですが、安全な分娩を実施するためには、分娩時に産科の医者が2人必ず必要だと。さらに、24時間常時対応するには、産科の医者が4名、または助産師が4名が必要という状況でございます。現在、全国的に産科医が不足している中で、その確保は困難という状況でございます。このため、南和地域の今度の病院につきましても、まず今、地域で妊婦健診を、公立3病院でしていませんので、妊婦健診につきましても、妊婦が安心して対応していただけるように、まずそれらの病院で対応する。また、それとあわせて、出産につきましても、平成23年1月より奈良県立医科大学附属病院で全室個室の、10床でございますけれども、メディカルバースセンターが整備されて稼働しております。妊婦健診は南和の病院で行わせていただいて、メディカルバースセンターで、分娩をしていただくように連携をしてまいりたいという予定でございます。以上でございます。

○富岡農林部長 TPPについてのご意見ですが、委員、ある程度わかっておっし

やっているのだと思うのですが、T P P 反対と言っているだけで日本の農業が振興されるかどうか、ひいては奈良県農業が振興されるのかは、ワンセットでないといけないと私自身は思っています、知事はいろいろお考えがあるかもしれませんが、今現在、国におきましては、6月を目途に一定の方向性を出すと、国のビジョンなり進行方向を出すと、お話をお伺いしておりますけれども、私の感覚でいくと、中間報告にしる、国民に早く情報を提供していただいて、国民的な議論を、本質的な議論を始めるのが、昨今ちょうど、ウルグアイ・ラウンドの平成7年補正ぐらいでしたか、それから10数年間農業に日が当たっていない状況ですから、国民の方々、当然県民も含めてですけれども、農業に関心が薄れてきているというのも事実という印象を持っています、そういう意味で早く中間報告なり方向性を示していただくことがまず先決ではないかと私自身は思っています。

いずれにしても、今回のT P Pに参加する、しないという議論は横へ置くにしても、今の日本の農業、奈良県の農業は、このまま何もしないでほうっておくと大変なことになるというこの状況は、この委員の方々、皆さん、共通認識だと思いますので、しからばどうするのかというのを農林部内でいろいろ議論もし始めていますけれども、やはり奈良県にふさわしいような、奈良県といいますと、都市近郊に置かれて、カキやお茶、イチゴとかそれから菊とかいろんな、どちらかというとその地域の土地柄に合わせたような農産物を、カロリーベースでいうと、逆に言うとカロリーの余りないものが主産になってるような、そういう奈良の農業の置かれた特性もございますので、奈良県は奈良県としての特性、長所、短所をきちっと見据えながら農業の振興策を探していく必要があると私自身は思っています、そういう意味でマーケティングコスト戦略、先ほどご説明申し上げましたけれども、リーディング品目、チャレンジ品目という2の柱で去年から、マーケティングコスト戦略の品目に対する予算額は、ちょうど2年で25%ほど増額もさせていただいて、力を入れ始めている状況ですので、足元も固めながら、そして国の対応を早く出していただいて、早期に、必要な場合は意見を農林部として知事にもお話をさせていただいて、国にしかるべく提案もさせていただきたいと、そんな感じで思っております。以上でございます。

○東道路・交通環境課長 近鉄吉野線についてのお尋ねをいただきました。

まず、橋梁につきましてですが、近鉄では、この数年で塗装の更新、またまくら木の交換など適宜整備を行っております、また、昨年8月に定期検査、こちらは2年周期で行

っていると聞いておりますが、そちらの結果も即修繕を要する変状は特に見られなかったと聞いております。また、運行に関しまして、近鉄吉野線はご指摘のとおりピーク時の今約6割ぐらいに利用者が落ちていると伺っております。ただ、近鉄としましても、観光地吉野へのアクセスとしまして、地域と連携しながら活性化を図っていきたくて伺っておりますので、県としても一緒に取り組んでいきたくて思っております。以上でございます。

○今井委員 お産の問題ですけれども、答弁される中身はわかるのですが、これから南和の医療をもう一回立て直していこうと、そして全部力合わせて拠点病院をつくっていこうというときに、一番南和の人たちが望んでいるものをきちっと位置づけてきていないのは、やはり非常に残念なことではないかと思っております。4年後に頑張っって何とかバースセンターでもできるようにしたいという目標を掲げてもらうだけでも皆さんの気持ちが全然違うと思うのですが、もう最初から出産は医大のメディカルバースセンターでとされてしまいますと、南和地域では出産できないのだと、子供が産めないのだ、住めないのだということになるのではないかと思います。南部振興局までつくって、過疎を何とかしようという、そうした一環の中で考えられているのであれば、前向きにぜひ検討していただきたいということを一言、もう一度申し上げておきたいと思っております。答えは結構です。

それから、TPPの問題です。TPPは最初、平成の開国とかいろいろ言われておりました、乗りおくれるなというような議論が盛んにありました。しかし、全国でももう既に30の地方自治体、議会で反対の決議が上がるとか、非常に大きな今、TPPの問題が指摘をされるようになってきております。9カ国ということでございますけれども、アメリカ以外のほかの国とは、日本は大体2国間での経済連携協定をしているところですので、残るところは、要はアメリカと日本のさまざまな関税の撤廃とかいろんな規制の緩和というところが一番のネックではないかと思っております。

アメリカもご存じのように今、大変な貿易の赤字を抱えておりました、日本にこうしたことを、撤廃してアメリカの農産物を売るというのがアメリカとしても大きな課題だと聞いているわけですが、農産物だけではなくて、金融、保険、公共事業、医療の規制緩和、労働者の移動の自由化、さまざまな24の分野に及んで、このTPPの作業部会が開かれているという状況でございます、これを安易に受け入れることは、日本の国の形が変わるし、本当にこの南和の地域がますます大変な状況になってしまうのではないかと思っておりますので、農業の問題でいいましても、アメリカの農業は日本と耕地面積と比べましても100倍の違いがあると、オーストラリアだったら1,500倍の違いがあると言わ

れておりまして、とてもそこで太刀打ちできるような状況ではないわけで、日本は日本としてきちっと守るべきところは守っていくと、大事な食料はちゃんと守っていくことが重要なものではないかと思っております。このTPPにつきまして、もう一度富岡農林部長のお考えをお尋ねをしたいと思っております。よろしく申し上げます。

それから、鉄橋の話は、すぐそうした話が出ていないということがわかりましたので、安心いたしました。今後ともぜひ重要な足の確保ということで、地元のさまざまなご意見やご要望にこたえられるように努力をしていただきたいと思います。

○富岡農林部長 TPPの再度のお尋ねですけれども、基本的に、今、自分の思いをみんな言ったつもりですけれども、強いて言うならば、今ご指摘のようにいろんな諸説が出る、私も一生懸命勉強をさせてもらってしまっていて、今井委員がおっしゃるように日本とアメリカでほぼ9割ぐらいを占めるという、日米のFTAみたいなものではないかという説もあるぐらいですから。ただ、このTPPの問題について、これは国政、いわゆる外交と申しますか、奈良県がでは声を上げてどうなるのかという、そこにはやはり限界があると思っております、奈良県は奈良県として足元を固めながら、いざというときには意見を言えるように準備をしておく。

そういう意味で、今の国の取り組み状況も、年末から1月にかけてまたそれぞれ変わっているのですけれども。当初はぼんと意見表明をされて、参加に向けた協議ということでしたけれども、その後すぐに6月までに一定の方向性を出すという、そういう中で2回ほど会議もされてました。我々、情報もつかんでいますけれども、その状況をつかみながら、注視しながら、必要なときに知事とも議論をさせていただいて、国に提案もさせていただくというスタンスでございまして、そういう意味では注視をして、慎重に日本の農業を見定めて、見きわめて、本質的な議論を、国民的な議論を喚起していただいて道筋をつけていただくというのが、ひいては奈良県の農業のためになるかと思っております。そういう思いを持っております。以上でございます。

○國中委員長 よろしいか。

○今井委員 はい。

○川口委員 数点、いろいろ意見を持っているわけで、今の今井委員のTPPの話は、同じ考え方です。率直に言って、通産の関係と農林の関係、これは矛盾があるわけ。矛盾のままだったらやっぱり押し出さないといけないと、押し出さない。初めからバランスをとったらぐあいが悪いと思う。奈良県でバランスをとられたら困るわけ。農業、負けます

から。

先般、私のところへ経済産業省の紙業生活文化用品課長がわざわざ説明に来てくれた。私どもの部落解放企業連合会、零細業、伝統産業の関係が多いですから、非常に国でも気遣いをしてくれて、要は政権が交代になったので、逆にまたT P Pの関心度が強まっているわけだけども、いずれにしても、国の方針は平成の開国というようなことで、菅内閣総理大臣が意気込んでおられるにしても、自由化の流れがありますから、これは困る。ある程度障壁をつくらないことには、日本の農業は、あるいはまた小零細企業はつぶれてしまうという、この危機感を持って対応してくれているわけです。

そういうことでありますので、奈良県の経済関係の担当者はどう言うかわかりません。いや、それにしても奈良県ではT P Pのおかげで助かりますという企業は、恐らくないと思うのです。農業に至ってはもうまさに大変なことです。今日までの農業政策、いろんな意味で矛盾の中で苦しめられてきた、休耕田まで政策として打ち出されての、農業を守る、農業経済を守る展開があったわけです。そういうことの歴史の上に立ち、あるいはまた現実を眺めるならば、富岡農林部長、農林部としてはこれは反対してもらわないと困ると言ってくれた方がむしろ、農と通産との関係のバランスのために大事ではないかと思うので、富岡農林部長の段階でバランスを考えてもらったら困る。これだけ申し上げておきたい。これ、抵抗です。いかに菅内閣総理大臣が頑張られたとしても、私どもは反対します。

だから、菅内閣総理大臣の仲間で、仲間という言い方はおかしいけれど、民主党政権のままでおやりになったら、いや、民主党も嫌いな部分と好きな部分がありますので。奈良県議会の民主党は余り好きではないけれども、とにかくこれは私どもの思いとして申し上げておきたいと思います。いろいろと私の気持ちだということで伝えておきます。

それから、この大滝ダムもいろいろご苦労いただいて、来年度末には大体の修理、補修ができるということでの供用の方向に向くのだろうと思いますが、水資源対策が大変だろうと思うのです。

そういう意味では、あえて思うのだけれど、きょうの朝の環境・廃棄物対策特別委員会で水資源とのかかわり合いで議論があったと思う。天理ダムの上流での産業廃棄物処分場の実情が話題になったと思う。だから、あの申請者がお亡くなりになったので、ご子息がこれを継承なされたということですが、現実には管理型の処分場、個人として申請されて継承されるわけだけども、いろんな実情からして、実際あれをきちっとした形で、天理ダムという水がめを守るような形での展開が継承されるのかどうなのか、これは天理市

民にとっては、不安でたまらないと思う。きょうは主目的ではないと思いますけれども、水資源を守るという視点から、きょうは環境関係が出席していますね。

(「自然環境」と呼ぶ者あり)

環境の関係で水資源の関係、だれかみえていますね。

(「資源調整課です」と呼ぶ者あり)

資源調整課、この水資源の問題は、天理ダムのことは関係ないと思ったら大間違いですよ。これだけ伝えときますから。天理ダムの問題、水資源は関係ないと思ったら大間違いですよ。これ伝えときますから。

それから、南部振興の関係でも出てきたし、土木部長がきょうまた話なされたのですが、県が産業集積地として南部振興は大きな目玉として考えていただいている。京奈和自動車道にインターチェンジ、御所インターチェンジであったものが、いつの間にやら樞原南・御所インターチェンジと、冠がついてるわけです。南部振興政策に水を差すような冠のつけ方の名称をつくるなど、申し上げているので、影山地域振興部長、これはあなたらの担当の部門でも、この名称については気にかけてもらわないと困る。何げなしに、ここ、どんだんああいうところは、言わなければいつの間にかこの樞原南は紙面全体を覆うのではないかと危機感を持っているわけです。だから、土木部長にも先日申し上げたので、もう何回言われるのですかと、土木部長は私の顔を見ながら嫌な思いだと思いますけれども、きょうはご両人同席だから、影山地域振興部長にも申し上げておきます。返事に困ると思うから、返事は遠慮しておきます。

それから、実はきょうも部屋で話をしていたのですがけれども、御所市にもアライグマがよく出て、私、アライグマを見たことがないのです。皆さんは見られたのだろうと思いますけれど、この間も御所市でアライグマが多く出ていますと、ほうと言うたら、あんとって怒られたわけですが、見たことがないのですが、大変なようです。話を聞くと、処分ですね、要は捕獲することと処分との問題があり、経費の問題もあろう。何か保健所へ持って行って、また捕獲した自治体にまた殺生してから持ち帰って処分しないといけないというような話なども聞いているわけですが、ここで聞いておきたいのですが、うだ・アニマルパークで野犬、犬の処分していますね。あそこで何で処分できないのかと思うわけですが、機能ですか、能力というのは一体どれほどあるのか、野犬の処分、犬だけではないと思いますけれど、こういったアライグマの処分まで考えていないということのようだけれども、ここら辺の調整はどうなっているのかということをお

尋ねをしておきたいと思うわけです。そういうことで、突然に質問をいたしましたけれども、関係課で調整をしながら対応してもらいたいと思うわけです。しかし、今のこのアライグマ対策を、一度聞かせてください。

○国中委員長 アライグマの担当課はどこですか。野獣だから。

○富岡農林部長 知っている範囲でお答えを。

(「知っている範囲で」と呼ぶ者あり。)

○富岡農林部長 不十分だということもありますが。

一応アライグマにつきましては、昨年からいろんな南部振興議員連盟とか南部の市町村からいろいろご要望もありまして、大和郡山市の家畜保健衛生所と、南部農林振興事務所で今、アライグマを処分した市町村でそれを運んでもらって県で処分をしようというので、連携を県で主体的に図らせてもらってるというのが1点あります。それをうだ・アニマルパークでできないのかというので、犬猫処分は今、くらし創造部に移って、(発言する者あり)消費・生活安全課で所管してしまして、そこでどういう能力をもっているのかどうか、これについては把握して、情報提供させていただきます。

○国中委員長 よろしいか。

○川口委員 はい。

○国中委員長 ほかにございませんか。

ほかになければ、これもちまして質疑を終わります。

なお、当委員会所管事項に係る議案が知事から提出される場合は、当委員会を定例会中、3月2日水曜日午前10時30分に再度開催させていただくこととなりますので、あらかじめご了承お願いいたします。

以上で本日の委員会を終わります。どうもご苦勞さんでした。